
スマ村のみんなの生活

スマッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマ村のみんなの生活

【Nコード】

N8261Y

【作者名】

スマッシュ

【あらすじ】

長くなると思いますががんばります
みんな見てくれよ。

その前のみんなは行く準備 プロローグ(前書き)

さて、かききれるかな？

その前のみんなは行く準備 プロローグ

キノコ王国

こんこん・・・

???「マリオさんとルイーダさんお手紙です」

マリオ「おおパレッタご苦労さんどこからの手紙？」

パレッタ「えーと、この世界のマスターハンドさんからです」

マリオ「また、あいつか・・・」

ルイーダ「そうだね・・・」

???「こんにちわ」

マリオ「あれ？ピーチ姫？何しているんですか？」

ピーチ「私にもその手紙と同じ内容よ。もしかしてまだ、読んでない？」

マリオ「うつつん・・・」

ピーチ「読んでみれば？」

ルイーダ「兄さん読んでみよう！」

封筒の中にはこんな手紙があった。

マリオ殿へ

マリオさん、あなたはスマッシュブラザーズ一員なので今から至急この世界へ来てください。

この手紙を持って来てください。では、後ほど。

マリオ「ふーん」

ルイーダ「行こうよ兄さん」

マリオ「ああそうだな！」

ピーチ「うふふふ」

ジャングル

???「うほ〜」

???「うきやきやきや」

こいつらはドンキーとデイディーである。
ドンキー「うほ〜（おい、デイディーこの手紙なんだ？）」「
デイディー「うきゃきゃ（これはマスターハンドからの手紙だよ）」「
ドンキー「うほうほ（じゃあこの世界へ行けばいいんだな？）」「
デイディー「うきゃうきゃ（そうだよ！）」「
こうして二匹は走って行きました。

ヨツシーアイランド

緑ヨツシー「ねえこれなんだと思う？」

赤ヨツシー「えーとなんだろう？」

青ヨツシー「食べ物でもねーしな」

緑ヨツシー「これはスマブラの主催者からの手紙だよ！だから、これを持って僕は出かけるから留守番していてね」

クツパ城

カメツク「クツパさま城にこんな手紙が・・・」

クツパ「何だと・・・」ボカツ

カメツク「グへ〜〜」

クツパ「そうかそうか、よし！」

カメツク「どうかされましたか？クツパ様？」

クツパ「5年くらい留守番しておいてくれ今から用事があるからな
！」

カメツク「ごつ5年ですか？」

クツパ「そうだちゃんと留守しとけよ！」

クツパは自分専用の飛行機で飛んでいった

そしてワリオは

????「ワリオ〜〜手紙だぜ〜〜」

ワリオ「何だワルイージそうぞうしいな！んっ手紙かかせっ！」「ド
カン

ワルイージ「ぐぎゃ！」

ワリオ「フムフムよしワルイージちよつと行ってくる」

ワルイージ「んが？なんだ？ワリオどこか行くのか？」

ワリオ「ああちよつとな」

ワルイージ「俺も連れてつてくれ」

ワリオ「駄目だぜ。じゃあな」

ワリオはバイクを取り出し走っていった。

ハイラル王国（城にて）

???「オゝゼルダ」

ゼルダ「あらリンクどうしました？」

リンク「こんな手紙が届いたんだよ。ゼルダも届いてる？」

ゼルダ「うんあるよしかも2つ・・・」

リンク「なぜ？」

ゼルダ「シークもだつて」

リンク「そうだったね」

???「俺も誘われたぜ！リンク！」

リンク「お前はガノンドロフ！」

ガノンドロフ「ふんまたお前とやれるとは久しぶりだな」

???「ふふふふ・・・」

リンク・ガノンドロフ「いつの間になつていたんだ、シーク？」

シーク「面白すぎてマスクで隠しているんだよ。以降じゃないか

この世界の所に！」

シークは急にゼルダに戻った

ゼルダ「じゃあ行きましょう」

リンクたちは馬に乗って行きました。

もうひとつの国

???「ちゃんと行かしてくれるかな？」

???「何しているんだリンク？」

リンク（トウーンリンク）「うわあ、驚いたよ、テトラー！」
テトラ「いや、さっきからそこそそしていたからなんだろうと思
ったからな」

トウーン「いやさっきこんな手紙が届いて・・・」

テトラ「なら行けばいいじゃないか！」

トウーン「ありがとう」

トウーンリンクは船で行きました。

スターシップ内部

???「何かしら？いきなりでたこの手紙は？」

10分間後

サムス「ふーん。じゃあ行こうかな」

エンジニアランド

???「わっいきなり紙が飛んできた！」

ピット「えーとなになに・・・よしじゃあ行こう！」

どこかの山

???「これ何、ナナ？」

ナナ「手紙でしょ、ポポ」

ポポ「うんそうだけどまあ一様読んでみよう・・・」

ナナ「じゃあ行きましょう」

ポポ「そうだね！」

二人は山を降りて行きました。

研究室

ロボット「エート、コノブン八ますたーはんどカラデスネフムフム・
・・・デハイキマシヨウ」

プププランド

「????「ぼよぼよ(ルンルン)」

「????「おい、カービー！」

カービー「ぼよ、ぼよよ?(なに、メタナイト?)」

メタナイト「お前宛に手紙だ。しかし私にも届いているんだがな
カービー「ぼよ・・・ぼよっ!(ふーん・・・よし、行こう!)」

メタナイト「その意気だカービー！」

「????「待てゾイ！」

メタナイト「デデデ陛下もですか！」

デデデ「そうゾイ!我輩も行くゾイ！」

ホコタテ星のホコタテ運送会社

「????「オリマー先輩手紙ですよ」

オリマー「ありがとうルーイ君・・・ふーん」

ルーイ「どうしました?先輩?」

オリマー「ちよつと社長に5年の休暇をもらえないか聞いてくる
ルーイ「5年もそんなに休暇もらえないと思いますよ」

5分後

オリマー「もらえた・・・」

ルーイ「なぜ!?(すげ〜)」

オリマー「知らないよ」

フォックスとウルフとファルコ

フォックス「よし、ん?なんだメールか?誰からだろう?」

ファルコ「おいフォックス、お前のところにもきたのか」
ピコーンピコーン

フォックス「ムッ！」

ファルコ「奴のおでましか・・・」

ウルフ「だーれが奴だつて?ムッなんだ、これは・・・」

フォックス「まさか！」

ファルコ「そのまさかだろうな」

ウルフ「フォックスまさかお前も・・・」
フォックス「ああそうだとも」
ウルフ「・・・・・・・・」

とあるレース場

???「うお~~~~」

???「むお~~~~」

2つの車がぶつかりあっていた

???「今日こそ負けないぞ、ファルコン！」

ファルコン「ほう勝つ自信があるのか、しかしお前の嫌いなカーブがあるぞ」

???「ぐわ~~~~」ドカ~~~~ン

ファルコン「よし勝った！」

???「お〜いファルコン手紙だぞ〜」

ファルコン「おおさんきゆうなになに・・・ほうそうか、すまんが俺一時レースができなくなる用事ができたすまん」

???「そうなの？なら仕方がないや」

ファルコン「行ってくるぜ！」

ポケモンギルド

ピカチュウ「へー」

ポツチャマ「どうしたの」

ピカチュウ「ちょっと親方様に聞いてくるんことができたから聞いてくる」

10分後

ピカチュウ「やったー」

ポツチャマ「どうしたの？」

ピカチュウ「今日から5年間違う世界に行つてくると言ったら・・・
プクリン「行つてきなよ」・・・と言われちゃったよ」

ポツチャマ「じゃあなぜ10分かかるのさ？」

ピカチュウ「……………」

ポッチャマ「言えないのか……」

ピカチュウ「まあ、僕は行く準備するからね。あっそういえばカリオとプリンも同じこと言ってたよ」

ポッチャマ「プリンはともかくなぜカリオ……!?」

ピカチュウ「まあ、目的は同じなんじゃない?まあ、いいやいつてきま……す」

ポッチャマ「行ってらっしゃい……」

マサラタウン

ポケモントレーナー(レッド)「よし、またこいつらを使えるなんて久しぶりだな」

オーキド博士「おおレッド君もう行く準備が出来とるのかね早いので」

レッド「あっ博士!はい今日のうちに出発するので」
オーキド博士「そうかいそくかい、では気お付けて行くのだぞ!」

レッド「はいっ、行ってきます!」

アカネイア大陸の城

???「あの……マルス?」

マルス「なに?今行く用意しているからそこで用件を言っただけ?」
???「何の用意をしていらっしやるのですか?」

マルス「何かって5年間違う世界の仲間たちと暮らすんだって?」
???「そうですか……では、行ってらっしゃい……」

マルス「うん、行ってくる」

クリミア王国にあるグレイル傭兵団基地

???「よしこれで、いいな」

???「お兄ちゃん何しているの」
アイク「ん?ミストか?」

ミスト「いったい何しているの」

アイク「いや、どうしたらこのラグネルが入るか試していてんだが入らないだから、手で持っていくよ」

ミスト「いったいどこへ行くのよ」

アイク「前俺がいなかった日に行っていたところだ」

ミスト「ふーん、何か食べ物ほしい？遠いんでしょ？おにぎり作ってあげるからまって」

アイク「分かった」

オネット

???「ママ僕また行きたい場所があるから行っていい？」

お母さん「いつまでいるの、ネス？」

ネス「5年間・・・」

お母さん「5年間！？まあいいわ行ってきなさい」

ネス「ありがとうママ」

ノーウェア島タツマイリ村

???「ねえ父さん行ってきてもいいかな？」

フrint「そうだなあ、ヒナワにでも聞いてみるリュカ」

リュカ「お母さんに聞いてもいいよ」

フrint「仕方がない、行ってこい」

リュカ「やったーありがとう。あつでもどうしようへビヒモはダスターに返したしな」

フrint「また借りればいいじゃないか」

リュカ「うんそうだね」

平面世界

???「ぴぴぴぴぴ（さっそく行こう）」

即終了！

シャドーモセス島

???「なんだ?いきなり無線が・・・こちらスネークなんだ?」

???「スネーク!マスターハンドから手紙がきてるぞ!」

スネーク「ふむ、そうか、今戻る!」

ソニックたちが住んでいる世界

???「おいソニック」

ソニック「Whatなんだい、ティルズ?butいまは忙しいんだ!」

ティルズ「ソニック探したよもうこんなところまでいるし」

ソニック「用がないなら行っちゃうぜ」

ティルズ「なぜ勝手に行くの?」

ソニック「Lookこれを見な」

ティルズ「へーそうなんだじゃあ行つてらっしゃい」

ソニック「行つてくるぜ!」

その前のみんなは行く準備 プロローグ（後書き）

長すぎた！

大変だ！

この先が思いやられる

マリオ「みんないるか？」（前書き）

また、大量に書くのかそれとも少なく書くかそれだけだ・・・

ルイーダ「誰の真似？」

スマッシュ「誰でもない・・・」

「マリオ「みんないるか？」」

この世界・・・それは、世界中の人気キャラクターが集まる、スマッシュブラザーズの本拠地でもある場所だ。

そこに・・・

マリオ「ヤッホウ！」

ルイーダ「イエー！」

ピーチ「ちよつと待ってよ〜」

マリオ「遅いですよ」

ルイーダ「もうみんな来ているよ」

マリオ「オ〜イ、みんな！」

リンク「あつマリオさん」

フォックス「おせーぞ！」

マリオ「超有名人は最後に来るもんだ！」

全員「・・・・・・・・」

マリオ「あつ凍りついちゃった」

????「みんなよくこれたな」

サムス「あつこの声は」

ファルコン「あいつだな」

ネス「うん、あいつだよ」

????「あいつ呼ばわりするなよ！」

リユカ「でっ、僕たちをまた呼んで何するの？マスター？」

マスターハンド「うむ、今日からお前達はスマ村に住んでもらう」

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・え〜〜〜〜〜っ」

マスターハンド「スマ村でただ暮らしてもらっただけだが、大家族みたいでいいだろ！」

ルイーダ「まあ、いいんだけど・・・」

マスターハンド「実はここに5人の元ファイターがいるんだが・・・」

「マルス「あれは！」
「???」「やあ、マルスさん元気でしたか？ロイです！」
「???」「あつピカチュウ！久しぶり、覚えてる？私、ピチューだよ」
「???」「ふん！久しぶりだな、現スマツシユブラザーズよ。ミュウツィだ」
「???」「あつ！大人の僕！久しぶり！ヤングリンクだよ」
「???」「ムツ！昔の俺がちゃんというるな元気にしていたか？Dr.
マリオだ」
マルス「ロイ……」
ピカチュウ「ピチュー……」
ルカリオ「ミュウツィ……」
リンク「わー、これでとうとう3人になってしまったよ」
マリオ「よっ、Dr.マリオ！」
マスターハンド「みんな久しぶりだろ！驚いただろ？」
「???」「おい、マスター何しているんだ？」
マスター「おっ、クレイジー！」
クレイジー「あつ、久しぶりだな……みんなあまり変わってないな……」
マリオ「なぜ、スマ村に住まなければいけないんだ？」
マスター「暇だから」
全員「おいつ！」
マスター「まあいい、お前達さつさとスマ村に行け！」
マリオ「はいはい……」

マリオ「みんないるか？」（後書き）

やっとテスト終わったぞ！

あとは帰ってくるだけだ！

テスト何点かな？

マリオ「テストのこと気にしているのか・・・」

カービィ「作者のことだから点数悪いよ」

スマッシュ「失礼な！今回は案外答えれたんだぞ！」

ルイーザ「へっっ」

スマッシュ「なんだよっ」(；0；)

そんなわけで大変だ！

到着と家族分け（前書き）

マリオ「やっと家に着くよ」
ルイージ「ほんとうだね」

到着と家族分け

とうとうスマ村へやってこれたファイター達
当たり前のように役場へ行く

役員「わー、こんなに来たら困ります！」

マリオ「住民票ください」

役員「住民票、どうぞ！」

マリオ「ありがとう、えーと・・・

マリオ家 ファルコン家

オリマー家

スネーク家

マリオ ファルコン

スネーク

オリマー

ルイージ サムス

フォックス

ゲーム&ウオッチ

ピーチ リンク

ファルコ

ロボット

Dr.マリオ ゼルダ

ウルフ

ヨッシー マルス

レッド(ポケモン3

匹)

ワリオ アイク

ピカチュウ

ロイ

ピチユウ

シーク

カービィ

ネス

リュカ

ピット

ポポ

ナナ

ヤングリンク

トゥーンリンク

おっさん家

ドンキー家？

メタナイト家

ソニック独り暮らしw

ガノンドロフ

ドンキー

メタナイト

クツパ

デイディー

ミュウツー

デデデ

ルカリオ

・・・だってファルコンのところ多いな・・・それにソニック(笑)

ソニック「What どうしたんだい？」

ソニックはメモを見て

ソニック「NO」

マリオ「では、各自の家へゴー！」

ソニック以外「おー！」

ファルコン「ファルコン家の子供たちよいくぞ！」

ファルコン家子供「お~~~~！」

ファルコン家青年「おー！」

次回、家の搜索

到着と家族分け（後書き）

ファルコン「本当に多いんじゃないか？」
スマッシュ「ああ、そうだね・・・」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問（前書き）

マリオ「みんなの家を作者が訪問するだど!？」

スマッシュ「うん、そうだよ。無理やりお邪魔させてもらっけど
ルイーダ「まあ、いいんじゃない？兄さん」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問

1件目マリオ家

スマッシュ「邪魔するで〜」

マリオ「邪魔すんなら帰って〜」

スマッシュ「あいよ〜・・・って、おい！」

ルイーダ「いや、自分から言ってきたじゃないか！」

マリオ「んで、訪問しにきたのだな!？」

スマッシュ「これからみんながどんな生活をしていくのが楽しみで
ね」

ルイーダ「じゃあ上がってよ!ピーチ姫を呼ぶから！」

スマッシュ「うん」

マリオ「ヨッシーはその辺にいるけどワリオがどっか行きやがった」

スマッシュ「そうか・・・じゃあ、会ったらボコボコにしてあげる
よ！」

マリオ（こわ〜）「うん、そうしてね・・・」

ピーチ「おまちど〜お菓子よ」

スマッシュ「どうもありがとう。まだ1日しかたってないけど今の
暮らしどう？」

マリオ「案外この村は暮らしやすいね」

スマッシュ「ルイーダは？」

ルイーダ「この村は他に人はあまりいないけど案外楽しいよ！」

スマッシュ「そうですか・・・じゃあピーチは？」

ピーチ「あら、案外この村おもしろいですよ」

スマッシュ「そうですか!では、次に行くのでここで・・・」

マリオ「待てよ!部屋見ていけないのか？」

スマッシュ「それだと書くの疲れるからね」

ルイーダ「どういうこと？」

スマッシュ「いや、こっちのこと」

ピーチ「次ファルコン家に行くならお土産持って行ったら？作ってあげるから」

スマツシュ「ありがとうございます！」

2件目ファルコン家

ピーンポーン

サムス「ハイ」

がちゃ

スマツシュ「こんにちわ！」

ファルコン「はっはっは来たな、若者よ！」

スマツシュ「はい、家庭訪問みたいなもので来ました、それとお土産です。中に入れてくれませんか？」

ファルコン「どうぞどうぞ！はいつてはいつて！」

スマツシュ「お邪魔します」

サムス「お茶とさっきのお土産のお菓子よ」

アイク・リンク・シーク・ゼルダ・ネス・リユカ「ハイ・・・」

ロイ・マルス・ポポ・ナナ・カービィ・トウーン・ヤンリン「わー

い！お菓子だー」

ばくばくばくばくばくばく

スマツシュ「やっぱり少なかったかな？まあいいや、どうですか？

今の暮らしは？」

ファルコン「代表として言おう。思いつきり愉快だぞ！はっはっは！」

スマツシュ「そうですね！他に役割とか決めているのですか？」

サムス「そうですね・・・。シークとリンクとゼルダは特に決めています。他はないですね」

シーク・リンク・ゼルダ以外全員（アイク昼寝中）（笑）「えっ！？」

スマツシュ「どんな役割ですか？」

サムス「シークは料理以外のことをリンクとゼルダは料理と一緒に

作ってもらいます。特にリンクはお菓子を作ったりしますよ。」

スマッシュ「そうですか！一回食べてみたいですね！」

リンク「どうも、ありがとう。ついでに、これ食べてください！」

スマッシュ「なんだい、これは？」

リンク「それは、いちごタルトです。一生懸命作りました！」

パクッ

スマッシュ「うまい！」

リンク「ありがとうございます！」

スマッシュ「ついでに僕も料理ぐらいできますよ」

リンク・アイク・シーク・ゼルダ・ネス・リユカ・ファルコン・サムス以外「すごい！」

わいわいわいわいわいわいわいわいわ

(書くの面倒くさいな、この家・・・)

スマッシュ「では、ありがとうございました」

3件目おっさん家

スマッシュ「ついに来てしまった・・・ここが加齢臭がぶんぶんする場所だ・・・」

クッパ・デデデ・ガノン「誰が加齢臭だ！」

スマッシュ「ちゃんと換気してくれよな！家ぼろくなっちゃうだろ！」

クッパ「だってよ、デデデが「虫は嫌いゾイ！」って言うからだ！」

デデデ「何だゾイ？悪口を言ってるゾイか？」

スマッシュ(早くこんなところから出たい・・・)「で、今の住み心地は？」

ガノン「まあ、いいところだ！」

スマッシュ「そうですか、では、さよなら！」

4件目スネーク家

スマッシュ「やっと、おっさん達から抜け出せた・・・今度はスネ

「ク家です」

ガラッ！

スマツシュ「邪魔するぞ！」

スネーク「きたか！」

フォックス「ギャグにのれよ！この馬鹿親父！」

スマツシュ「あの……」

ファルコ「いつもの事さ、こっちに来な……」

レッド「あつ、来ましたね！いま、おやつを用意をしていたんです
！」

ピカチユウ「そうだよ！僕とピチューはレッドの手伝い！」

ピチュー「うん！」

スマツシュ「そうか、手伝い頑張れよ！ところでウルフは？」

ファルコ「向こうにいるぜ！何してるかはわからないけどな！」

スマツシュ「ふーん」

フォックス「行かないほうが身のためだぜ！」

スマツシュ「なぜ？」

フォックス「危ない物が飛んでくるからさ」

スマツシュ「……」

レッド「用意できましたよ！」

スマツシュ「これはすごいな」

レッド「りんごを使ったお菓子です食べてください！」

スマツシュ「いただきまーす
もぐもぐ」

スマツシュ「うまいよ！」

レッド「どうもありがとう！」

スマツシュ「ところで聞くけど今の暮らしどう思う？」

スネーク「家族代表で言うぞ！楽しいそれだけだ！」

フォックス「本当にそれだけかこのやるう！」

スマツシュ「彼ら仲がいいんですね……」

ファルコ「いつもケンカしているぜ……」

レッド「……………」
スマッシュ「どうもありがとうございます！」

5件目オリマー家

スマッシュ「続いてオリマー家です。中はどうなっているのでしょうか？」

ウィーン

オリマー「いらっしやいませー、あっ！」

ゲムヲ「アツ、キタノデスネすまっしゅサン」

ロボット「奥二行ツテオイテクダサイ。後デ行クノデ」

……

オリマー「おまちどうさまです！」

スマッシュ「わー！すごい！」

ロボット「けーきヲ持ツテキマシタ、ドウゾ好きナけーきヲ取ツテ下サイ」

スマッシュ「チーズケーキにするよ！」

ゲムヲ「ワカリマシタ。ドウゾ」

スマッシュ「ありがとう！」

オリマー「ついでに紅茶を入れてきました」

スマッシュ「どうも。ところで今の住み心地はどうですか？」

オリマー「私たちはここに住めたおかげでケーキ屋まで作ってしまいました。楽しいです！」

スマッシュ「わかりました」パクッ

スマッシュ「じゃあね！」

道端

スマッシュ「ムツ！ワリオがいた！よし！ボコボコにしよう！」

ワリオ「うへ〜暇だ〜」

スッ！ガシッ！

ワリオ「なんだ〜？」

スマツシユ「ちよつとごめんね」
ボカツ！ドカツ！バキツ！ボキツ！
ワリオ「ぎゃーーーーー」
スマツシユ「ふーっ！おっさん家に行ったときのストレスが発散で
きたよ。さてこいつどうしよう……まあ、とりあえずマリオ
家に届けるか！」

マリオ家 本日二回目

スマツシユ「よし来た！」

ピンポーン

マリオ「誰だ〜？」

スマツシユ「スマツシユです」
ガチャッ

マリオ「よう！スマツシユ……わっ！ワリオが、驚いたー」（本
当にボコボコにしてる〜）

スマツシユ「どうぞこれおみやげです」

マリオ「お土産って、これか？」

スマツシユ「そうだよ？どうしたの？」

マリオ「いいや何もないけど、ありがとう」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問（後書き）

スマッシュ「言っとくけど次回から後書きをスマッシュブリーダーの日記にするから1人ずつ書いてくれよ！」

全員「えーーーーー！」

と、いうことで次回から順番に日記を書いていきます！

作家家！（前書き）

マリオ「作者たちがこのスマ村へ住みつくそうだ」

全員「え〜〜〜」

作者達「うるさい！」

作家家！

スマツシユ「ちよつとごめんよ」

役所の人「ちよつと！」

スマツシユ「この村にいるスマツシユブラザーズ！ただちに役場まで来い！」

1分後・・・

マリオ「なんだ？スマツシユ？」

スマツシユ「今日から作者達がここに住むぞ！」

全員「・・・・・・・・・・」

しばらく沈黙・・・

全員「えーーーーーーー！」

2分後

スマツシユ「さつそく来たな、おーい！」

????「こんにちわ！」

????「やあ」

????「やつと、ここに来れたよ」

????「でも、タクシー5台は・・・」

????「まあ、いいんじゃない」

????「疲れたな」

????「あつ！みんなだ、おーい！」

????「みんな、遅刻もせず早いね」

????「男ばつか・・・」

????「早く家行きたい・・・」

スマツシユ「みんな、来てるね！これから作家すなわち作者の家にいるからね。まあ、名前を覚えてくれ！」

しら「僕はしらよろしくね！ついでに僕は『スマブラ〇〇中』を書

してるよ！」

ryouki「僕の名前はryoukiだよ。僕は『スマブラメンバーの新しい家?』を書いてます」

パルポン「俺はパルポンだ。俺は『テイズル』の話を書いているよ」
ほーき雲「僕はほーき雲です！僕が書いている小説は『スマブラ』などを書いています」

ギルバート「俺はギルバード・デュランダルと言う名前です。書いてるのは『俺キャラxスマブラx作者さんオールスターズ 逃走中』を書いてるぜ！」

夢幻「俺の名前は夢幻 だ！今書いている小説は『スマッシュハンターブラザーズ』だ！」

死神魔姫「俺は死神魔姫だよ。俺は『大乱逃走中』を書いているからな！」

瑞希 優羅「私は瑞希 優羅です。書いてる小説は『スマブラで逃走中やつちゃうよー』を書いてます！」

ゆうたん「ぼくはゆうたんだよ。小説は『スマブラxぷよぷよ7で逃走中』を書いているよ」

スマッシュ「以上これから作家家に住む人達だよ！」
ファルコン「スマッシュの作った作者の家・・・小さかったよな？」

スマッシュ「僕が頑張っつて借金を払ったんだよ！だから今は学校の校舎と同じくらいだよ」

全員「えっ!?!」
マリオ「いつの間!?!」

スマッシュ「まあ、見てなくても仕方がないよ。夜の間に借金返してたから」

リンク「でも、4日でそれは早すぎではないですか？」
スマッシュ「僕の小遣い10000000000000000000ベルだからね」

全員達「えーーーーーーー!」
作者「凄すぎる!」

マリオ「どんだけ貰ってるんだー!」

スマツシユ「でも今貯金してるからね。家にあつたら狭くなるよ」
ルイージ「そうだよね」
スマツシユ「じゃあ作者さん達以外解散！」

スマツシユ「じゃあ、家に行こう！」

作者達「そうだね・・・」(金すごいな・・・)

次回、作者家の中！

作家家！（後書き）

今日、僕にかけてる眼鏡が崩壊したよ・・・

マリオ「何してそうになったんだよ！」

スマッシュ「拭くもので拭いたら壊れた・・・」

マリオ「だから眼鏡変わってるんだな！」

スマッシュ「そうだよ」

作者家の中（前書き）

すみません・・・竜斗さん書くの忘れてました！
日記忘れていた・・・今回から書かせる！

作家家の中

スマツシュ「着いたよ！」

作者達「ここか！」

見たところ案外すごい豪邸になっていた

スマツシュ「頑張ったんだぞ！」

作者達「いや、頑張つてないだろ！」

スマツシュ「まあ、そんなことはいいや、入って入って！」

中

しら「すごい広いですね！」

ryouki「そうですね、思ったより広いよ」

パルポン「ここに持つてるもの置いていいか？」

スマツシュ「置いていいよ！もう、僕達の家なんだから」

竜斗「部屋はいくつあるんですか？」

スマツシュ「ざっと20部屋ぐらいかな？」

ギルバート「多！」

死神魔姫「これからここで暮らすんですね！」

夢幻「じゃあスマブラの人たちの所へも遊びに行ってもいいの

な？」

スマツシュ「遊びに行ってもいいですよ！」

ほーき雲「わーいわーい！」

ゆうたん「でもどうするの？」

スマツシュ「とにかく解散！」

ゆうたん「僕はこの家に残るよ」

瑞希 優羅「私は今、店に行って買い物してくる……」

スマツシュ「これカタログ」

瑞希 優羅「ありがとう」

しら「じゃあ、服買おう！」

ryouki「僕も買うよ！」
スマツシュ「僕も買おうかな？」

店

瑞希 優羅「これとこれとこれください！」
店員「はい、わかりました！」

服屋

スマツシュ「この帽子欲しい！買おう！」
店員「ありがとうございます！」
しら「みんなの服買わないとね！」
ryouki「じゃあ全部」
しら・スマツシュ・店員「えっ!？」

店の外

しら・スマツシュ「重いよ」
ryouki「ごめん・・・」

家

ゆうたん「わっ！よく、こんなに買ってきましたね！」
ryouki「まあね」
しら・スマツシュ「・・・」
瑞希 優羅「ただいま」
4人「お帰り！」
スマツシュ「何を店に買いに行ったの？」
瑞希 優羅「家具を大量予約してきたの。これメモ」

メモ

請求書

ベット10個	198000ベル
机(大)3個 (小)5個	596000ベル

椅子20個	100000ベル
クローゼット10個	99000ベル
ランプ20個	50000ベル
絵20個	10000000ベル
冷蔵庫1個	3980ベル
キッチン1個	6980ベル
コップ10個	10000ベル
皿30枚	19800ベル
なべ5個	5000ベル
フライパン2個	2960ベル
はにわ10個	13000ベル
化石10体	100000ベル
落とし穴の種100000個	10000000ベル
その他30種類	100001768320ベル
服代(帽子も)	100000000000ベル

4人「おもいつきり書いてるな・・・」

しら(しかも、はにわ)

ryouki(おっ落とし穴の種100000個・・・しかも1個1ベル・・・)

ゆうたん(買すぎだよ・・・)

スマッシュ(あと、979998231680ベルか・・・まだまだあるね!)

瑞希 優羅「買すぎたかな?」

4人「あははははは(焦)」

作家家の中（後書き）

今日の日記 書いた人 マリオ
今日服屋行ったら服が全て売切れになっていた・・・

届く、家具やいろんな物

ピンポン

????「お届け物です！」

ゆうたん「何？」

瑞希 優羅「来た来た」

宅配便「御注文の品をお届けに来ました！」

瑞希 優羅「そこに置いて後はこの人たちに運んでもらうから！」

みんな「え〜〜〜〜！」

宅配便「わかりました！では！」

スマツシュ「さ、さっそく運ぼう・・・」

しら「うん・・・そうだね・・・」

ryouki「重！」

竜斗「いっぱい入ってるね・・・」

ほーき雲「これを2階に運ぶの〜」

瑞希 優羅「そうだよ」

みんな「・・・・・・・・」

2時間後・・・

ギルバート「やっと、終わったー！」

夢幻「疲れたー！」

死神魔姫「そうだね！」

パルポン「どんだけあるんだー！」

スマツシュ「終わったからお金あげるよ」

みんなは100万ベルもらった。

みんな「ありがとう」

残り貯金99788231680ベル

死神魔姫「でも、埴輪って必要なものなのかな？」

しら「そうだね・・・」

ギルバート「服もかなりあるね」

スマツシュ「じゃ、欲しい服、1人10枚、持って行っていいよ」
服の数110枚

ryouki「これとこれとこの服がいい」

ほーき雲「それとって!」

夢幻「ほれ!」

ほーき雲「ありがとう」

ゆうたん「僕が欲しいんだ!」

パルポン「いや俺のだ!」

瑞希 優羅「みんなけんかしないで取ってね!」

30分後

スマツシュ「よし、分けられたね」

ギルバート「なぜ、お前だけ帽子買ってるんだよ!」

スマツシュ「自分で買ったんだよ!」

竜斗「じゃ自分の部屋へ行こうよ!」

死神魔姫「そうだな、部屋行って家具を置くよ!」

スマツシュ「だから、部屋へ解散!」

届く、家具やいろんな物（後書き）

今日の日記 書いた人 ルイージ

今日、僕が料理作ったのに失敗料理が出来てしまった
間違えた！スペシャル料理を作ろうとしたのに！

作者軍、遊びに行くぞー！ 作者達「おー！」

スマッシュ「今日、違う人の家に遊びに行こう！」

しら「楽しそうですね！」

ryouki「そうですね」

ギルバート「じゃ行くぞー！」

作者達「おー！」

スマッシュ「ところで誰の家行くの？」

作者達「あ……」

ギルバート「誰の家に行こうか……俺はファルコン家！」

パルポン「マリオ家！」

しら「マリオ家！」

ryouki「ファルコン家！」

瑞希 優羅「ファルコン家！」

夢幻「どつちでも！」

ゆうたん「オリマーの家に行きたい！」

ほーき雲「ファルコン家！」

死神魔姫「うーん……オリマー家」

スマッシュ「僕はファルコン家！だからファルコン家に突撃するぞ

ー！」

作者達「おーーーー！」

ファルコン家前

ピンポーン

サムス「はーい！」がちゃ！

スマッシュ「遊びに来ました！」

サムス「入って……多いね……」

ギルバート「じゃまするよ！」

しら「すみませんね……」

中

ファルコン「なんだ？遊びにきたのか？歓迎するぞ！」
作者達「そこまで歓迎しなくても・・・」
マルス「遊びに来たの？なら、2階でゲームしようよ！」
ryouki「そうか！しよう！」

2階

ギルバート「何のカセット持ってるんだ？」
アイク「大体全部かな・・・？」
リンク「まあ、ほとんどある、っというわけですよ」
しら「これしよう！『スマブラX』！」
ロイ「僕が出ていないゲーム・・・」
マルス「あのね・・・ロイにはこれは禁句だよ・・・」
しら「そうなの！ごめんね」
ロイ「いいよ・・・」
ゼルダ「このほうがいいんじゃないの？」
そうゼルダが取り出したのは『3DS マリオカート7』を渡した
マルス「これ3DS無いと駄目だよみんな！3DSとカセットある
？」
スマッシュ「あるよ！8個！」
アイク「丁度あるのか・・・」
リンク「さっそくやりましょう！」
ryouki「でも、人数分無いですよ・・・」
ギルバート「ルールを言う！ルールは5位から8位になった人は次
の人と交代する！」
みんな「おお！」
スマッシュ「じゃさっそくやるっ！」
スマッシュ「僕、マリオ！」

リンク「ルイージさん」

ロイ「ヨッシー！」

ギルバード「クツパ！」

ryouki「じゃ、ドンキー！」

しら「僕はヘイホー！」

ゆうたん「メタルマリオにしよう！」

瑞希 優羅「ピーチ！」

ゲームにて

3・2・1・GO!

スマツシュ「スタートダッシュだー！」

リンク「速！」

ロイ「僕もスタートダッシュ！」

ギルバード「負けるかー！」

ryouki「すばやいな！」

しら「アイテムゲット！やったー！ラッキーゲットだ！」

ゆうたん「ええ！？」

しら「いけ！ゲッソー！」

瑞希 優羅「前が見えないよー！」

スマツシュ「ジャンプ台だー！それ！」

ギルバード「オリヤ！」

現在順位

1位 スマツシュ

2位 ギルバード

3位 しら

4位 ロイ

5位 ryouki

6位 リンク

7位 ゆうたん

8位 瑞希 優羅

瑞希 優羅「サンダー！」ドカーン！
みんな「ぎゃー！ー！」

ゆうたん「お先！」

ゆうたんはスターを使っていた

スマッシュ「来たか！？」

ギルバート「逃がすかー！赤コウラ！」

スマッシュ「きくかー！バナナ！」

アイク「二人すごいデッドヒートだな・・・」

スマッシュ・ギルバート「うおー！ー！」

ゴール！

順位

1位スマッシュ

2位ギルバート

3位ゆうたん

4位瑞希 優羅

5位ロイ

6位しら

7位ryouki

8位リンク

ギルバート「惜しい！残り差0.1秒！」
スマッシュ「ほんとすごいですね！」

作者軍、遊びに行くぞー！ 作者達「おー！」（後書き）

今日の日記 書いた人 マルス

今日、家に作者達が来た！

今回は、『マリオカート7』をしてスマッシュさんとギルバートさんがデッドヒートになっていました！

作者軍、遊びに行くぞー！作者達「おー！」 p1 a t 2 (前書き)

リンク「今からお菓子を作ってきます」

ゆうたん「僕も作るよ！」

作者軍、遊びに行くぞー！作者達「おー！」 plat 2

スマッシュ「さて、『星のカービィ Wii』をしよう！」

カービィ「僕の出てるゲームだ！」

ギルバート「俺はメタ様だ！」

スマッシュ「じゃあ、カービィにしよう」

マルス「僕は、デデデで」

ロイ「僕は、ワドルディ！」

スマッシュ「格闘王をしよう！」

スマッシュ「どのコピーにしようかな？よし！ハンマーだ！」

ギルバート「最初は中ボスバトルか！」

スマッシュ「普通の中ボス以外のボスは体力が多いんだって！」

ロイ「そうだったの！？」

マルス「知らなかった・・・」

ギルバート「よし！やるぞー！」

5分後

スマッシュ「ラスボスまで来たぞー！」

みんな「早すぎる・・・」

ロイ「さすがにマホロア倒すの大変だよ！」

スマッシュ「大丈夫！みんな！今ってカービィに出来たっけ？」

マルス「チート使ってるからできるけど・・・」

スマッシュ（チート使ってるんかい！）「じゃあ、カービィにして

！」

ギルバート「メタ様は駄目なのか？」

スマッシュ「コピー能力だからね」

ギルバート「ところでどっちのコピーなんだ？」

スマッシュ「全員ボムを取って」

ロイ「取った」

マルス「取ったよ」

ギルバート「取ったぞ！」
スマツシュ「じゃあ、入ろう！」

スマツシュ「マホロアに大量の爆弾を投げつけるー！」
ロイ「そういうことか！」

マルス「マホロアの通常攻撃を防いでるんだね！」

ギルバート「それとダメージもでかいし！」

スマツシュ「これなら早いだろ？」

1分後

スマツシュ「マホロア撃破！」

ロイ「こんなに速く終わるなんて・・・」

マルス「チートのせいじゃない？」

リンク「お待たせしました！」

ゆうたん「お菓子できたよ！」

アイク「そうか・・・ぐう、ぐう」

みんな「寝た・・・」

スマツシュ「おいしい！」

ギルバート「うま！」

みんな「あっ！勝手に食べてる！」

スマツシュ「ギルバートさんもう一回マリカ7しよう！」

ギルバート「そうだな！コースはウーファイランド2！キラリ！」

スマツシュ「そうだよね！キラリ！」

シーク「ロイあの二人何してるの？」

ロイ「マリオカート7だって今から2人だけでするって

シーク「そうか・・・」

3・2・1・GO！

スマツシュ　マリオ

ギルバート クツパ

スマッシュ「そこだ！」

ギルバート「ここだ！」

2人「ムッ！」

リンク「映像で見てください！」

マリオとクツパが接戦しています

マリオとクツパが水のあるほうへ向き水の中へ飛び込んだ
すると、出てくる位置は2ラップ目のゴール近くにでる

スマッシュ「これを知ってたのか！」

ギルバート「そっちもか！」

スマッシュ「仕方ないって先行かれた！」

ギルバート「お先！」

スマッシュ「あっ！キラーだ！」

ギルバート「なに!?!」

きゅーん

ギルバート「グハッ！」

スマッシュ「1位だ！」

ギルバート「させないぞ！サンダー！」

ドカーン！

スマッシュ「うわっ！」

ギルバート「オリヤオリヤ！」

スマッシュ「あと少しだ！」

ゴール……………

引き分け！

みんな「エー……ッ！」

スマッシュ「こんな奇跡ってあるんだね……」

ギルバート「そうだな……」

作者軍、遊びに行くぞー！作者達「おー！」 plat2 (後書き)

今日の日記 plat2 ロイ

今日は本当に疲れる・・・

皆既月食見るぞー！（前書き）

マルス「本当は昨日に書きかたっ たんだよね？」
スマッシュ「そうだよ」

皆既月食見るぞー！

スマッシュ「はい、ちよつとごめんね」

役所の人「あつ！また！」

スマッシュ「おい！今から月を見るぞー！」

マリオ「なんだよ！よびだして！」

スマッシュ「今日は皆既月食になる日だよ！」

ルイーダ「そういえばニュースで聞いたよ！」

マルス「僕達はまだ皆既月食なんて見たこと無いね」

アイク「前回の月食は・・・11年前・・・」

ロイ「そうだよ」

ソニック「やつと、小説に出て来れたぜ！」

リンク「何言ってるんですか？」

ソニック「1人暮らして出て来れなかつたんだぜ！」

リンク「そうですか」

スマッシュ「あと、1時間で皆既月食になるぞー！」

ゆうたん「暇だからケーキでも作ってこよう」

リンク「じゃあ、私も！」

ゼルダ「作りますよー！」

ピーチ「私も、私も！」

ルイーダ「僕はスペシャル料理を作るの再開しようかな？」

マリオ「いつも失敗料理が出来てるからな・・・」

ルイーダ「兄さん！それを、言わないでー！」

スマッシュ「ほー・・・、手伝ってあげるよー！」

ルイーダ「ありがとう！」

マリオ「なぜだ？」

スマッシュ「本当は僕の夢は料理人だからね！」

マリオ「納得した」

皆既月食まで残り10分

マリオ「本当だな月が欠けてきたぞ！」

ルイーダ「本当だね！料理できたよ！」

スマッシュ「僕のおかげだね！」

リンク「こつちも出来ました！」

ゆうたん「ケーキ100種類です」（あるのか？100種類？）

ピーチ「頑張ったのよ！」

ゼルダ「特にシヨートケーキがね・・・」

残り1分

スマッシュ「カウントダウンしよう！」

30秒

みんな「29・28・27・26・25・24・23・22・21・

20・19・18・17・16・15・14・13・12・11・

10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・今だ！」

皆既月食になった！

マリオ「1時間あの状態なんだな！」

スマッシュ「そうだよ！作者は本物の皆既月食を見ているよ！」

ワリオ（おなら野郎）「うまいうまい！・・・っておい！なんで俺

がおなら野郎なんだよ！」

スマッシュ「うるさい！いつもおなら出してるじゃないか！」

リンク「まあまあ・・・」

スマッシュ「ところでなんで赤かわかるか？」

ロイ「知ってるよ！地球の影で月が陰っているんだね！」

スマッシュ「そうだよ」

マルス「へー・・・、ロイ、物知りだね！」

ロイ「へへへ・・・」

スマッシュ「さて、ケーキでも食べよう！あっそうだ！割尾はお預
けね！」

皆既月食見るぞー！（後書き）

今日の日記 書いた人 リンク

今日、皆既月食がおこった！

あんなのはじめてみました！

クリスマスしよう！（前書き）

マリオ「ちょっと早いけどクリスマスパーティーをするぞー！」

クリスマスをしよう！

ピンポンパンポン

スマッシュ「えー……と、何言おうとしたかな？」

みんな「おい！」

スマッシュ「思い出した！みんな、広場にまた来い！」

みんな「またかよ！」

数分後

マリオ「なんだよ！」

スマッシュ「今回もいきなりだけどクリスマスパーティーをしよう！」

ルイーダ「今度はクリスマスか……」

リンク「料理を作ればいいんですね！」

スマッシュ「よくわかったな！」

リンク「パーティーのときはわかります！」

スマッシュ「その前にツリーになる木を探さないとね！出来るだけ

大きいのを探して来い！ワリオ！」

ワリオ「なぜ、俺だけ！」

スマッシュ「五月蠅い！また、名前変えるぞ！ワガ尾！」

ワガ尾「やめてくれ……わかった……行ってくる……」

スマッシュ「これで、木は何とかなるだろ」

しら「料理担当はどうしましょう？」

スマッシュ「ここは、料理が出来る人じゃないとね！ルイーダ、ピ

ーチ、リンク、ゼルダ、サムス、

メタナイト、オリマー、ピカチュウ、レッド、ピチュー、ゆうたん、

スマッシュだ！」

ryouki「他の人は？」

スマッシュ「木に飾り付けやその他いろいろ……」

ryouki「わかりました！」

2時間後

プルルルルル

スマツシュ「ワリオからだ！」ピッ！「なんだ？」

ワリオ「全長100メートルの木を見つけたぜ！人数を20人連れてきてくれ！」

スマツシュ「わかった！今、言うから場所教えてくれ！」

ワリオ「どこかの洋館の前！」

スマツシュ「わかった！出来るだけ力持ちのヤツベスト20人を送ってやる！ついでにだけワリオ！見つけたお前も運んで来いよ！」

その、1時間後

ワリオ「持って来たぜ！」

20人「ヒーヒー！」

スマツシュ「お前・・・運ばなかったのか・・・」

ワリオ「そうだぞ！」

スマツシュ「・・・リンク・・・ボムヘイを持ってないか？」

リンク「ありますよ？」

スマツシュ「ワリオ・・・自分で見つけて仲間と協力しながら運んでこいと言ったぞ・・・」

ワリオ「ヘッ？」

スマツシュ「なぜ、運んでこなかったんじゃー！」ポイツ！ポカーン！

ワリオ「グヘー！ー！」

5時間後・・・

スマツシュ「料理終わった！」

ゆうたん「ケーキも作りました！」

マリオ「こっちも飾りつけなど終わらせたぜ！」

クッパ「我輩は大変だったのだ！」

ワリオ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

ロイ「あれなんですか？」

マルス「何だろうね・・・はははははは」

アイク「眠いが・・・頑張ったぞ・・・」

スマッシュ「肉があるからっていったじゃん！」

アイク「そのために頑張ったのか」

ガノンドロフ「復活したぞ！」

ギルバート「司会は、俺とメタ様にやらせてもらっぜ！」

メタナイト「では、乾杯」

みんな「乾杯！」

スマッシュ「ワリオはこの骨ね！」

ワリオ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

リンク「疲れたのでしょうか？寝てますね」

アイク「がつがつがつがつ・・・・・・」

カービィ「バクバクバクバクバク・・・・」

ヨッシー「ゴクンゴクンゴクンゴクン・・・・」

マリオ「3人ともゆっくり食べなよ・・・・」

アイク「うっ！」

マリオ「どうしんだ!?!」

アイク「うますぎる・・・・」

みんな「・・・・・・・・」

ワリオ「みんなが気をそらしてる間に・・・」

リンク「!、みなさん!ワリオが復活してますよ!」

ワリオ「やばい!早く料理を取って逃げないと!」

スマッシュ「待てー!お前はお預けと言っただろ!」

ワリオ「捕まえたいんなら捕まえてみる!」

クリスマスを楽しもう！（後書き）

今日の日記 書いた人 アイク

今日の料理に出た肉はかなりおいしい

z . . . z . . . z z z . . .

クリスマスはまだまだ、続くよ！（前書き）

マリオ「今度はプレゼント交換だ！」

クリスマスはまだまだ、続くよ！

マリオ「プレゼント交換をするぞー!!」

ルイージ「これは今日のお楽しみじゃないだろー!」

マリオ「なんてことするんだよー!」

ルイージ「その楽しみは明日にしまっとけばいいんだよ!」

マリオ「なるほど!」

ギルバート「では、あらためてミニゲームをするぞー!」

メタナイト「このミニゲームはマリオパーティ2・5・6・7・8・

DSのミニゲームをするぞー!」

マリオ「マリオキャラのやつらには簡単じゃないか!」

ギルバート「そのところは心配ない!自分のからだを使ってミニゲ

ームを実感するんだぜ!」

メタナイト「意外と危険だが楽しいように改造させた」

マリオ「じゃあやるぞー!」

クッパ「我輩は出演はあったがミニゲームは出たことがなかったな

しら「なんかたのしそうですね!」

ryouki「でも、まけませんよ!」

ゆうたん「僕は出ないよ・・・怖いからね・・・」

リュカ「僕も・・・」

ネス「大丈夫だとは思っただけだね・・・」

リンク「私は大丈夫です!攻撃などみんな当たってましたからね!」

ガノンドロフ「ふふふふ、俺様もでるぜ!」

割尾「がっはっはっは!俺様のパワフルの力を見せてやるぜ!・・・

割尾「て書くな!」

スマッシュ「暴れさせないためにロープで縛っておこう」

ギルバート「わかった・・・」

割尾「やめてくれ・・・」

ギルバート「よくもメタ様にあげるケーキを横取りしたな・・・」

割尾「ギャー！ー！ー！」
ギルバート「おとなしくしろ！」

スマツシュ「これからやるから出たいやつでてきて！」
出たい人（作者合わせて）

32人

マリオ・ルイージ・ピーチ・クッパ・ドンキー・デイディー・ヨッシー・リンク・シーク・ガノンドロフ・トゥーンリンク・ピット・ロボット・カービィ・メタナイト・オリマー・フォックス・ファルコ・ファルコン・ピカチュウ・ルカリオ・マルス・アイク・ロイ・ネス・スネーク・ソニック・しら・
ryouki・ギルバート・死神魔姫・スマツシュ

スマツシュ「決まったよ！今からトーナメント組むから抽選箱から1枚紙を取ってよ！」

クリスマスはまだまだ、続くよ！（後書き）

今日の日記 書いた人 ピーチ

今回の私は違う！

優勝をもらっわよ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261y/>

スマ村のみんなの生活

2011年12月24日23時49分発行